

からだにいい水をつくる 貴陽石

ご使用に際して、この説明文書を必ずお読みください。また、必要な時に読めるよう大切に保存してください。

「からだにいい水」、摂っていますか？

からだの約70%は水です。体内で酸素や栄養を運ぶ血液も82%が水で、脳の組織の75%も水です。成人では、1日に2.5ℓの水が汗・呼吸・尿・便などで排出されています。対して摂取は、飲み水で1.3ℓ、食べ物で1ℓ、食べ物の酸化で生成され0.2ℓといわれています。摂取された水は、溶媒として栄養素などを溶かし、からだの隅々にまで栄養を運搬してエネルギーに変えています。また、老廃物を体外に排出します。この働き優れたものが「からだにいい水」です。

「からだにいい水」は、以下の3つの条件を満たすものだとわれています。

- ①クラスター(水の分子集団)が小さい
 - ②酵素活性力がある
 - ③界面活性力がある
- 『からだにいい水をつくる貴陽石』は、この条件を向上させる、天然の鉱石です。

◆貴陽石セラミックボールがつくる「からだにいい水」

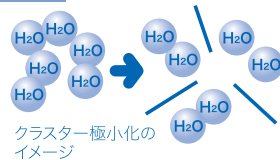
ペットボトル等の容器に入った水道水に本製品を浸し、キャップをして10回ほど振るだけで、「からだにいい水」ができます。クラスターを小さくし、酵素活性力を向上させ、界面活性力を高めることが『命の水研究所』の試験によって証明されています。(下記参照)

また、酸化還元電位と残留塩素を下げる効果もあり、電気機器を使用することなく、水道水を「還元水」に導きます。(裏面参照)

「からだにいい水をつくる貴陽石」浸漬水の水質試験結果 [1] 測定: 生命の水研究所

クラスターの極小化

¹⁷O線幅は、クラスターの大きさを表します。本製品を浸した水の方が小さくなっています。クラスターが小さいと体内に吸収されやすくなります。



クラスター極小化のイメージ

実験精度: ±1.0Hz

試料水	¹⁷ O線幅 (Hz)
コントロール水(水道水)	99.0Hz
貴陽石セラミックボール浸漬水	93.5Hz
差 (Hz)	-5.5Hz

※測定室温: 21.5°C

酵素活性力が向上

本製品を浸した水は活性酸素を消去する酵素(SOSA)が23%向上しています。体内酵素の活性化を一層促します。

試料水	SOSA(Units)	規格化値
コントロール水(水道水)	9.13Units	0.91
貴陽石セラミックボール浸漬水	11.41Units	1.14
差	+2.28Units	+0.23

※測定室温: 23°C

界面活性力が向上

本製品を浸した水は、界面活性力が48%向上いたします。体内の脂肪組織に溜まった物質を溶かし出して、排出する力が増すことがわかります。

試料水	溶け込んだサラゲ油量 (mMol)	規格化値
コントロール水(水道水)	32.2(5.09mMol)	1.00
貴陽石セラミックボール浸漬水	47.6(7.52mMol)	1.48
差	+15.4(+2.43mMol)	+0.48

※測定室温: 23°C

「からだにいい水をつくる貴陽石」浸漬水の水質試験結果 [2] 測定: 日本食品分析センター

酸化還元電位と残留塩素の低下

酸化還元電位とは、「酸化させる力」と「還元させる力」の差を表したものです。イメージ的には、酸化とは「老化」、還元とは「若返り」を連想します。酸化力の高い塩素が飲料水に入っていると、身体の免疫力を低下させ、病気にもかかりやすくなります。本製品を浸した水道水は、残留塩素を除去し、免疫力、自然治癒力を高める還元力のある「からだにいい水」を生成します。

酸化還元電位の変化 ※測定室温: 25°C

対照水(水道水)	690mV
貴陽石浸漬水(24時間後)	560mV

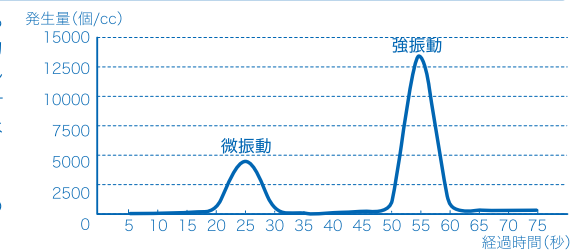
残留塩素の変化 ※測定室温: 23°C

対照水(水道水)	0.36mg/ℓ
貴陽石浸漬水(24時間後)	0.10mg/ℓ

高マイナスイオン発生

※測定: 遠赤外線応用研究会 測定室温: 19.6°C

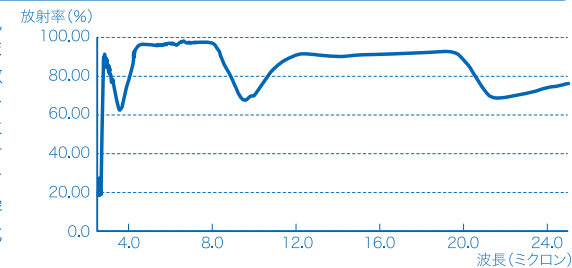
「マイナスイオン」とは、自然界にあるマイナスの電荷を帯びた小さな物質です。貴陽石は自然界のエネルギーを凝縮した特殊鉱物で、マイナスイオン発生量が他の鉱物と比べて圧倒的に多いのが特徴です。振動させると微弱電流が発生して、クラスターをさらに小さくし、水の酸化を抑え、体内吸収を高めます。



高遠赤外線放射率

※測定: 三重県科学技術振興センター 測定室温: 25°C

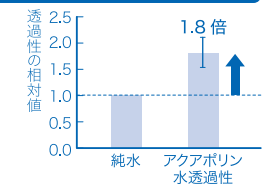
貴陽石は、天然鉱物では他に類を見ないほど、高い遠赤外線を放射します。水は遠赤外線と共鳴・吸収し、激しい振動を繰り返す中で、クラスターが細分化されます。遠赤外線を水に照射すると、塩素などの不純物や有害物質が分解され、鉱物に含むケイ素など元素の微量ミネラルが多く溶出して、味がまろやかになり、活性化された「からだにいい水」になります。



アクアポリン活性水生成

※グラフ: 秋田県立大学名誉教授 農学博士 北川良親氏著書より抜粋

「アクアポリン」とは体の細胞膜上にある蛋白質で、水だけを通す穴があり、人間の細胞はここを通して水を体内に取り入れます。この通りやすさ(アクアポリン透過性)が、細胞への水の吸収されやすさにつながります。貴陽石は、アクアポリン透過性が高く、栄養素と十分な水分が浸透して、新陳代謝を促進する、「からだにいい」アクアポリン活性水を生成します。



【ご注意】定期的に煮沸してご使用ください。

製造・販売元・お問い合わせ先 合名会社 群馬長石 TEL.03-5931-7950 (受付時間/9:00~17:00) 日本製 定価8,000円(税抜)

試験報告書

依頼者 合名会社 群馬長石

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検体 貴陽石セラミックスボール

表題 浸漬水の水質試験

2016 年(平成 28 年)08 月 22 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

浸漬水の水質試験

1 依頼者

合名会社 群馬長石

2 検体

貴陽石セラミックスボール

3 試験概要

検体（ステンレス容器に貴陽石セラミックスボールを25 g入れたもの）を依頼者提供のペットボトル（容量約500 mL）に入れ、水道水（東京都多摩市）で満たして、塩素が揮発しないように蓋を閉め密閉状態にした。大きく10回振とうした後、恒温器内（22 °C ± 1 °C）で静置した。6及び24時間後にペットボトル内の浸漬水をガラスビーカーに移して酸化還元電位、pH及び残留塩素の測定を行った。また、試験に使用した水道水をペットボトルに満たして塩素が揮発しないように蓋を閉め密閉状態にして同様に静置し、対照水として保存開始前、6及び24時間後にガラスビーカーに移して酸化還元電位等を測定した。

検体を浸漬している様子及び酸化還元電位を測定している様子を写真撮影した。

4 試験結果

結果を表-1~4に示した。また、検体を浸漬している様子(図-1)及び酸化還元電位を測定している様子(図-2)を示した。

表-1 酸化還元電位(25 °C vs Ag/AgCl)*の試験結果

	浸漬水	対照水 (水道水)
保存開始前	690 mV	690 mV
6時間後	660 mV	700 mV
24時間後	560 mV	690 mV

* 3.33 mol/L KCl-Ag/AgClを比較電極とした酸化還元電位(実際に使用した電極)

表-2 酸化還元電位(25 °C vs NHE)*の試験結果

	浸漬水	対照水 (水道水)
保存開始前	890 mV	890 mV
6時間後	870 mV	910 mV
24時間後	770 mV	900 mV

* 標準水素電極を比較電極とした換算値。酸化還元電位(25 °C vs Ag/AgCl)から算出

表-3 pHの試験結果

	浸漬水	対照水 (水道水)
保存開始前	7.7(23 °C)	7.7(23 °C)
6時間後	7.7(22 °C)	7.7(22 °C)
24時間後	7.7(23 °C)	7.7(22 °C)

表-4 残留塩素の試験結果

	浸漬水	対照水 (水道水)
保存開始前	0.36 mg/L	0.36 mg/L
6時間後	0.20 mg/L	0.33 mg/L
24時間後	0.10 mg/L	0.27 mg/L

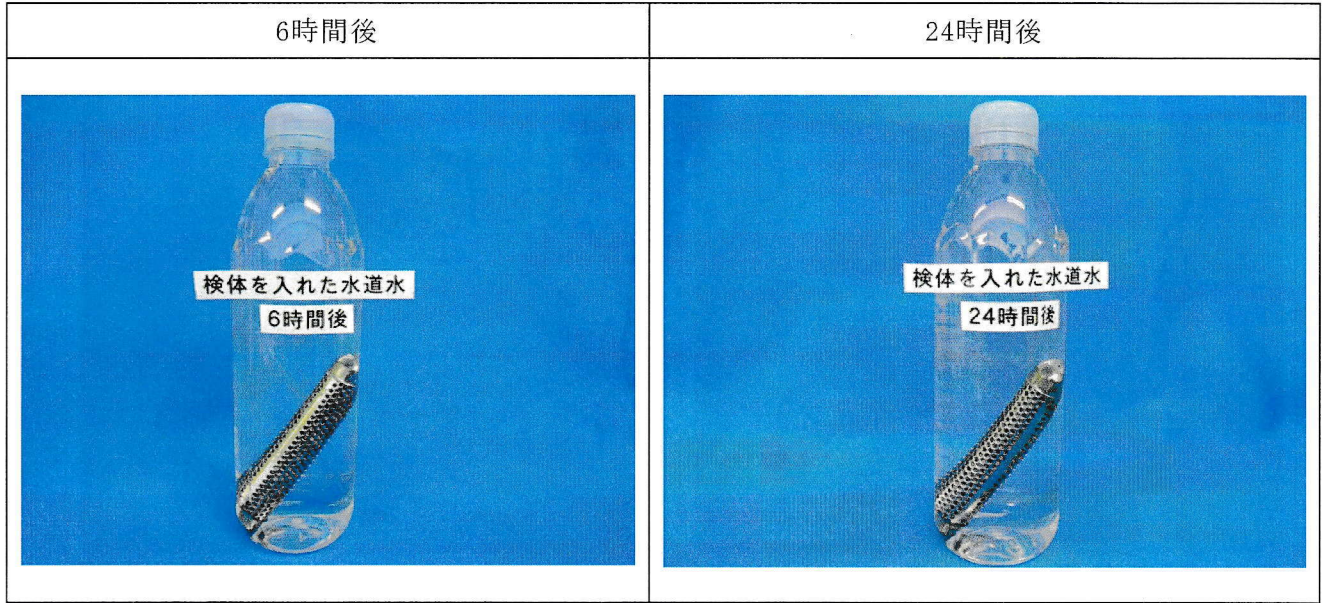


図-1 検体を浸漬している様子

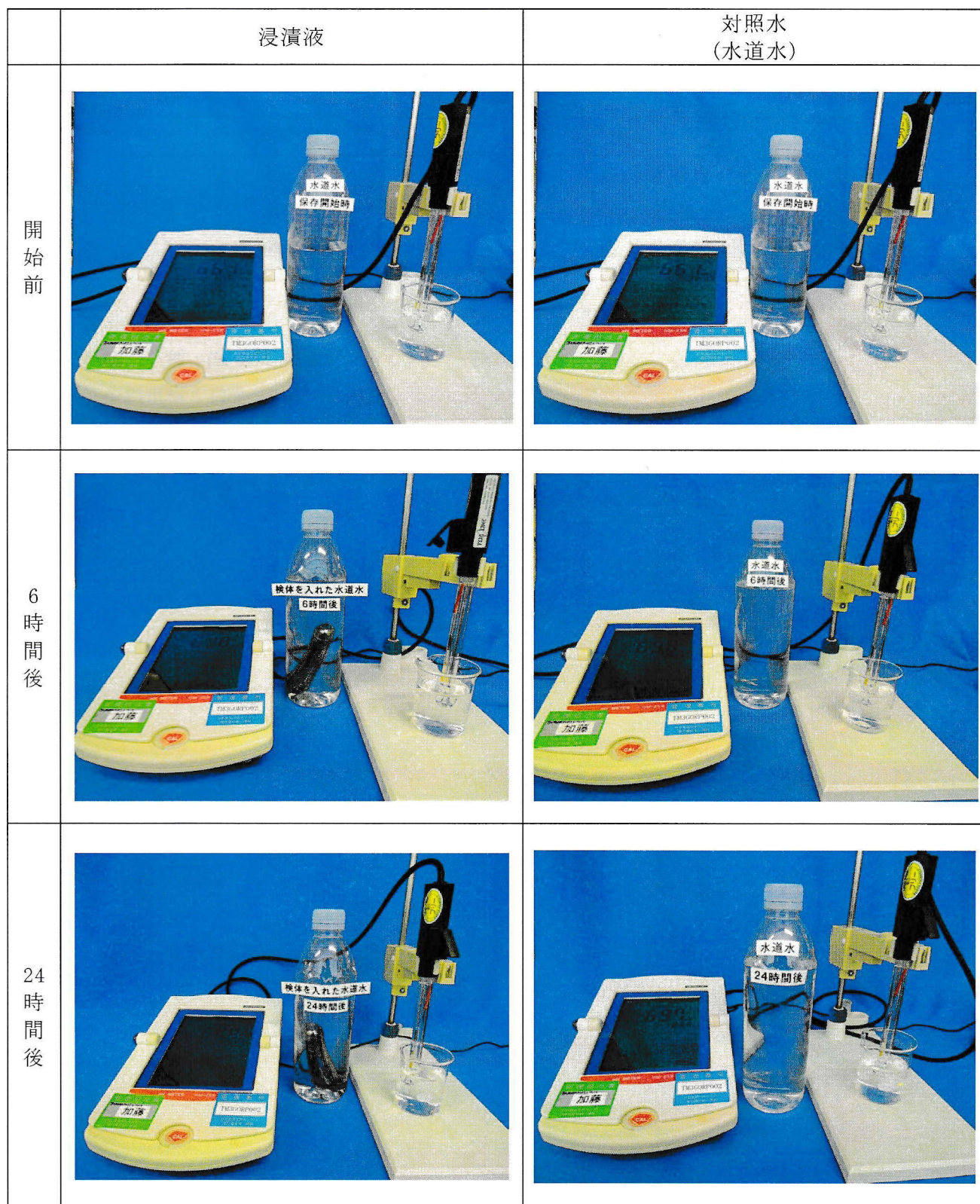


図-2 酸化還元電位を測定している様子

(計器に表示されている値は提出値ではありません)

5 測定方法

1) 測定方法を表-5に示した。

表-5 測定方法

分析試験項目	測定方法
酸化還元電位	白金電極法
pH	ガラス電極法
残留塩素	吸光光度法

2) 酸化還元電位計操作条件

機 種 : HM-25R [東亜ディーケーケー株式会社]

金属電極 : 白金

比較電極 : 銀-塩化銀

比較電極内部液 : 3.33 mol/L 塩化カリウム溶液

以 上